

第6学年（体育科保健領域） 「病気の予防～感染症の歴史から学ぼう～」

授業者：お茶の水女子大学附属小学校
養護教諭 江部 紀美子

1 使用した教材

Q&Aシリーズ「炎症・感染症」

2 単元について

2019年末から猛威をふるい始め、あっという間に世界へと広がった新型コロナウイルス（以下、コロナと略す）は、私たちの暮らしや生き方そのものにも大きな影響を与え、感染症の恐ろしさを改めて思い知らせた。感染症はどうして怖いのか。それは、感染症のことを知らないからであり、人は知らないことに関して恐怖を感じる。その恐怖が人々を間違った行動に走らせたり、差別や偏見を生んだりするのである。感染症は、「病気」そのものの感染だけではなく、「不安」や「差別」といった心のあり様にも感染し、弱者や同調しない人たちを追い詰め、病気はさらに広がっていく。このことは、世界で感染症が起るたびに社会が崩壊し、分断してきた歴史がまさに今、くり返されているといえる。

未だ先行きの見えない状況の中、コロナと共に生きている子どもたちであるが、歴史の中でくり返されてきた感染症から学べることはないだろうか。そこで、天然痘やペスト、スペイン風邪などと同様に、人類の歴史と共にあった結核に焦点をあてることにした。結核は、我が国では1年間に約14,000人の新しい患者が発生し、約2,000人が命を落としている感染症であり、決して過去の病気ではない。また、学校感染症にも位置づけられ、定期健康診断の項目でもあることや、乳児期に受けた注射痕がまだ体に残っている子どもも多い。結核の歴史や、それをとりまく差別や偏見、労働環境などの社会状況について知ることを通して、コロナと共存するために自分たちに何ができるのか考えてもらいたい。そして、コロナが収束して新たな感染症が出現したときにも、不安に負けず、正しい知識と理解に基づいた冷静な行動ができる人になってほしい。さらに、一市民として集団や社会全体の健康へと考えていくための素地を涵養できるように、対話を通して育みたいと考えた。

3 授業の実際

1) 単元名

「病気の予防」

2) 単元について

健康は自らの生活の質を高めたり、自己実現に近づいたりするための一つの手段であるといえる。しかし、この度の新型コロナウイルス感染症の拡大は、否応なしに健康について考えざるを得ない状況となり、人々の生活やもちろん、生き方そのものに大きな影響をもたらしている。

この学習を通して、まだ先行きが見えない状況の中、これからの生活で、新型コロナウイルスにかかわらず、新しい感染症や健康問題が出てきたときに、どのように対応するかを自分で考えて行動ができる、つまり、“健康を自分で決める力”を発揮させ、生涯にわたって主体的に健康の保持増進をしてほしいと願っている。

また、個人の健康だけではなく、集団や社会の健康にも関係していることを、対話を通して考えていきたい。そして、学習を通して、自分で考えて行動でき、生涯にわたって自他および社会の健康を考えていこうとする力を育みたい。

3) 学習指導計画（全4時間）

第1次（1時間）：「病気の起こり方と正しい健康情報を見きわめるための方法を知ろう」

【ねらい】・病気や健康とは、どのような状態のことをさすのか考え、病気の要因には、主に病原体、環境、生活のしかた、体の抵抗力などが関わり合って起こることを知る。また、主な要因の他に、ヘルスリテラシーが大きく関わってくることに気付く。

・テレビやインターネットなどの健康情報を意識して見ることや、正しく理解して行動することが大切であることに気付く。

第1次で使用したプレゼンテーションスライド（一部抜粋）

病気の起こり方

病原体

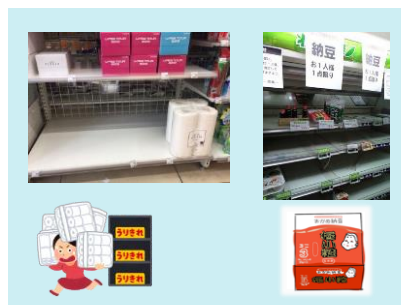
細菌、ウイルス など

環境

寒すぎる、暑すぎる など

生活のしかた

運動不足、すいみん不足、糖分やしぼ、塩分のとりすぎ、栄養の不足



コロナに効く、予防できる？！

- ・26～27℃のお湯を飲むといい
- ・イソジンでうがいをするといい
- ・アオサを食べるといい
- ・加湿器等に次亜塩素酸水を入れて噴霧することで空間除菌ができる

消費者庁からも呼びかけ

「身につけるだけで空間除菌」等の広告表示にご注意ください

根拠のない商品にご注意ください

ウイルス 空間除菌

どんな空間でも除菌できる！

ウイルスを殺菌

リテラシーとは

- ・読んだり、書いたりする力のこと
- ・与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力。応用力。

ヘルスリテラシーとは

健康についての情報を収集し、意思決定・行動選択していく力

= 健康を決める力

情報源 → 入手 → 理解 → 評価 → 活用 (意思決定) → 行動 → 健康

情報を見きわめるためのキーワード

- い いつ？
- な なんのために？
- か 書いた人 価値もない
- も 元ネタはなに？
- ち ちがう情報と比べて？

※1 滋賀県立医科大学のヘルスリテラシーを研究するプロジェクトチームが使用している、情報を見きわめる際の5つのキーワードで、それぞれの漢文字をたづねておきましょう。

病気の起こり方

病原体

細菌、ウイルス など

環境

寒すぎる、暑すぎる など

体のていこう力

運動不足、すいみん不足、糖分やしぼ、塩分のとりすぎ、栄養の不足

ヘルスリテラシー

ヘルスリテラシーのある人を目指そう

こころ からだ 健康 みんな

第2次(2時間)：「感染症の歴史から学ぼう」

【ねらい】・学校感染症とは何か。その目的や予防方法について知る。

- ・結核を中心に、感染症に関する正しい知識や、その予防に必要な方法について知る。
- ・不安や差別も感染することや感染症にかかった人や家族の人権が損なわれてはならないことを知り、正しく恐れることはどういうことかを考える。

第2次(2時間)の指導案

	主な学習活動と子どもの姿	留意点
1	<ol style="list-style-type: none"> 1 病気の起こり方について振り返る 2 学校感染症について学ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・健康手帳(※)を見て、自分の予防接種歴から感じたことや気付いたことを発表する ・クイズ「何の感染症でしょうか」 ・定期健康診断における結核健康診断について 3 古くて新しい病気「結核」について学ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・症状 ・予防および治療方法 ・結核の現在(日本と世界) ・結核をとりまく歴史について 	<ul style="list-style-type: none"> ○主な要因の他に、ヘルスリテラシーが大きく関わることを説明する ○健康手帳を忘れた児童は、保健調査票にも同様の記入欄があるので、それを見るように説明する ○保健調査票の結核健康診断の問診についての記入欄を見る Q37「定期接種の予防接種はどのように行われますか？」 Q39「学校感染症(旧・学校伝染病)って何ですか？」 Q36「予防接種にはどのような効果があるのでしょうか？」 Q23「新興感染症と再興感染症とは何ですか？」 Q43「結核は昔の病気と考えてよいのでしょうか？」

		か？」 Q44「結核は治せる病気ですか？」 Q45「結核の予防対策にどのようなことをする のですか？」 ○（財）結核予防会作成のリーフレット「結核 の常識 2021」を配付する
2	1 前時までの振り返り 2 結核をとりまくデマや差別、労働環境など について 3 「負のスパイラル」について学ぼう ・不安や差別も感染すること 4 “正しく恐れる” ってどういうことだろう 5 これまでの授業を通して、みんなで考えて みたい問いを書き出し、見合う。 6 これまでの授業の振り返りを書く。	○文部科学省監修「新型コロナウイルス～差 別・偏見をなくそうプロジェクト」の動画を 視聴する ○不安や恐れは、危険を避けようとする本能的 なもので、誰もが持っている自然な感情であ ること。不安や恐れがあるからこそ、人間は 予め危険を避けるための準備をすることが できる Q34「感染症にかからないために私たちがすべ きことは何ですか？」 Q25「パンデミックには心理的影響はないので しょうか？」 ○各自のノートパソコンを使用し、入力する。 (グーグルドキュメントで共有する)

※健康手帳…学校保管の保健調査票とは別に、予防接種の記録や健康診断の結果および受診状況、学校感染症に罹患した場合の出席停止解除に関する書式、欠席や遅刻・早退届などが1冊にまとまった手帳。通学鞆に入れて登校することになっている。

第3次（1時間）：問いをもとに“てつがく”しよう

【ねらい】・第1～2次の授業で学んだ知識をもとに問いを立て、てつがく対話を行い、互いの考えや意見を聴き合う。

・コロナと共存するために、今、自分たちにできることは何か考えることができる。

4) 授業（第2次）の実際

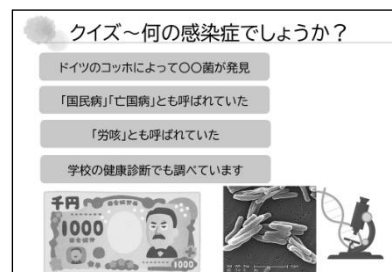
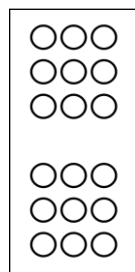
第1次の振り返りを行った後、各自の健康手帳の予防接種歴や学校感染症の一覧を見て、気付いたことを発表した。予防接種したものに○がついているため、○の数を数える子どもたち。「24回も注射をしている」「27 あった」「コロナのも打ったし、インフルエンザも毎年打っているから、30回以上だ」と、毎日持ってきている自分の手帳でありながら、まるで初めて見たかのような反応をしていた。

そして、「何のためにおうちの人に接種歴を書いてもらうのかな」と問うと、表1のようなやりとりがあった。最初に、「安心するため」と答えた子どもに対し、「誰が安心するの？」と問い返すと、学校を楽しく、安全な場所にするためなど、個人だけではなく、集団としての予防の視点で考えている意見も挙がった。

表1

T:何のために、おうちの人に接種歴を書いてもらうのかな？ C1:安心するため！ T:誰が安心するの？ C1:学校が。 T:学校というのはどういうこと？ C2:学校もだけど、自分も大丈夫だって安心する。 C3:学校を楽しくする。学校を安全にするため。 C4:後で、これを打ったんだなって記録できる。 T:そうだね。例えば、水ぼうそうにかかった人がいたら、予防接種を受けていない人はいないかなとかも確認できるし、予防接種をしていたら、もし、うつってしまったも軽く済むかもしれないかもわかるし、安心することができるね。
--

次に、「これは何でしょう」と、BCGの接種痕をイメージ化した、○がたくさんある図を見せた。「オセロ」「魔法陣」「席替えに使うのかな」「点字」「COとかGOだっけ？」と次々に感じたことをつぶやく子どもたち。授業者が、「みんなの体のどこかにあるもの」とヒントを出すと、「え？ある？」「どこに？」「細胞か！」といったように、すぐには正解にたどりつかなかったが、「あ！はんこ注射だ」とある子どもが言うと、子どもたちはハッとしたように制服の腕をまくり、注射の痕を探し始めた。



さらに、「何を予防するための注射だと思う？」と問うと「インフル？」「水ぼうそう？」と、まだ結核に結び付けることはできなかった。すぐに答えが出ないことを想定して、予め準備していたクイズを出し、結核への理解を深めることにした。結核で亡くなった著名人やアニメの登場人物などを紹介しても、答えが結核である確信がもてない様子だった。子どもとやりとりする中で、授業者が思わず答えを言ってしまったところ、「ああ～！やっぱり」「そうだ、結核だ～」、喉元を指さしながら「ここまで出たのに～」と子どもたちは残念がっていた。

七木田(2021)は、「知識やスキルの多さ、高さではなく、それをもとにして自らの生き方につなげる応用力や発想力」が保健授業のデザインに大切だと述べている。当初、本単元を行うにあたり、コロナの基本的な予防方法については、ある程度は分かっていたのだから、予防できるように知識を教え、行動できるように動機づけすればよいのではないかと考えていた。しかし、あえて目の前にあるコロナではなく、子どもたちにとって、自分とは別の、遠いところにあった、結核という感染症の歴史と現在という新たなモノとの出会いを通して、コロナを始めとする感染症を、なぜ予防しなければならないのか、立ち止まって考えてほしいと考えた。そのためには、自分が知らないことに気付くこと、「知らないことを知らない」状況から「知らないことを知る」きっかけとなるような、出会いの場をつくる授業をデザインすることが大切であると考え、学んだ知識をもとに対話を行った。また、教師の役割として、子どもたちが当たり前を問い直し、自分事として考えることができるような発問や教材を子どもたちに示すことが大切であり、教師自身が問い続け、本質を学んでいく必要があるだろう。

【引用・参考文献】

- ・中山和弘(2016)『第1章 ヘルスリテラシーとは』, 福田洋・江口泰正編「ヘルスリテラシー：健康教育の新しいキーワード」大修館書店
- ・お茶の水女子大学ヒューマンライフイノベーション開発研究機構(2021)『Q&Aシリーズ炎症・感染症』
- ・日本学校保健会(2020)『新型コロナウイルス～差別・偏見をなくそうプロジェクト』
- ・小林寅詰 監修(2021)『感染症で考えるモラルと人権』ポプラ社
- ・七木田文彦(2021)『保健授業の挑戦—学びの創造とデザイン』大修館書店
- ・飯島 渉(2018)『感染症と私たちの歴史・これから』清水書院